

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 20 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520607

研究課題名（和文）

Can-Do リストと連動させたシミュレーション型 ESP 能力自己評価サイトの構築

研究課題名（英文）

Development of a Simulation-type Self-evaluation Website for assessing ESP proficiency using a Can-Do List

研究代表者

深山 晶子 (MIYAMA AKIKO)

大阪工業大学・知的財産学部・教授

研究者番号：80301646

研究成果の概要（和文）： 自律学習を目的とした場合、学習の流れを作り興味を持続させるタスクを工夫することが必要である。シミュレーションタイプのタスクは、学習者に実際言語が使われる場面の仮想体験をさせることができるので、この目的のためには有効である。本研究は、ESP の能力を自己評価することができ、かつ学習することも可能な e-Learning サイトを構築した。そのサイトに提供されているのはシミュレーションタイプのタスクである。タスクの枠組みを設定する際に Can-Do リストを利用していることから、学習者は、同時に自己の ESP の能力も自己診断できる。

研究成果の概要（英文）： For self-study that can be continued, there is a need to develop tasks that can create a flow of interest to sustain study. Working through simulation-type tasks can give the learner virtual experiences with various language situations that are likely to be encountered. The aim of this research is to develop a simulation-type self-evaluation e-Learning website for assessing ESP proficiency by using a Can-Do List, which serves as guidelines for planning the learning tasks.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：教授法・カリキュラム論

1. 研究開始当初の背景

言語運用能力が国際基準ではどの程度のレベルにあるのかを自己査定することのできる指標作りが世界中でトレンドとなっている。これらの指標の代表的なものが、Can-Do リストを指標とする“Common European Framework of Reference for Languages”（以下 CEFR）である。日本においても、日本版 CEFR を作成する試みが進ん

でいる（小池、2008）。しかし、CEFR による Can-Do リストは、例えば「簡単な要件を電話で伝えることができる」のような抽象的な文言に基づいた指標で、客観的に自己評価をするという目的には不都合なもので実用的とは言えない。さらに CEFR は一般的な英語能力の査定のみを目標としたもので、専門英語 (ESP: English for Specific Purposes) 能力の査定は視野にない。

本研究の着想に至った経緯は以下の通りである。先行研究として、平成 19-20 年度科学研究費補助金基盤研究「知的財産分野における ESP の教授法および教材開発に関する基礎研究」(研究代表者：井村誠、課題番号 19520528)において、深山・森(2009)が行った「知的財産分野における英語コミュニケーション能力自己診断用 Can-Do list 作成の試み」がある。この研究では、CEFR の Can-Do リストを参考に、知的財産分野の専門家(企業知財部員・弁理士・特許審査官・知財専門教員・パラリーガル計 13 名)の協力を得て「知的財産分野における英語コミュニケーション能力自己診断用 Can-Do リスト」を作成することを試みた。リストの枠組みは、CEFR(1990)の Basic user 1・2(基礎段階の使い手：以下 A1・A2)、Independent user 1・2(自立できる使い手：以下 B1・B2)、Proficient user 1・2(熟達した使い手：以下 C1・C2)の 6 段階に準じた。例えば、リーディングの C1 レベルの Can-Do リストでは、「自分の専門分野について法令・裁判例などが読める」「USPQ 等の審判決が正確に理解できる」「自分の専門分野の専門書が読める」「英文特許侵害警告状を読める」などのような具体的項目が集まり、4 技能、各レベル集計すると述べ約 600 項目が集まった。

ところが、完成リスト項目を当該専門分野の学生に示して自分がどのレベルにいるかを自己診断するように求めたところ、リストを示されても、「実際にそのリストに示されているような場面を体験しないとできるかできないかの判断は難しい」「項目にあげられている文書や場面の専門用語が理解できない」という回答を寄せたものが多く、このリストをそのまま自己査定用リストとしては利用できないということが分かった。そこで、本研究で提案している「Can-Do リストと連動させた、シミュレーション型 ESP 能力自己評価サイト」を構築するということを着想するに至った。

参考文献：

1. Council of Europe. 1990. *Common European Framework of Reference for Language: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
2. 小池生夫『企業が求める英語力調査報告書』. 2008. 平成 16 年度～平成 19 年度科学研究費補助金(基盤研究(A))(研究課題番号 16202010)

2. 研究の目的

本研究では、CEFR の Can-Do リストの枠組みを利用し、専門分野の英語を客観的に評価することができるサイトを構築することを試みた。具体的に言えば、以下の 2 つの目的がある。

(1) 専門分野の仕事をする際に必要な英語運用能力自己査定用の Can-Do リストに基づき、そのリストに自己診断テストを連動させたサイトをウェブ上に構築することで、ユーザーの専門分野英語の運用能力を自己診断できるようにする。

(2) 本研究の特徴として、自己診断テストはシミュレーション形式となっていて、実際のコミュニケーションの現場を疑似体験できるものとなっていることがある。このことから、当「シミュレーション型」ESP 能力自己評価サイトは自己診断テストの提供だけでなく、専門英語の e-Learning 教材ともなる。

3. 研究の方法

ESP 教育は、専門家集団のニーズを分析し、その分析結果に基づきシラバス・授業方法・教材を決定していくことが特徴で、かつ前提となっている。本研究では、深山・森(2009)で明らかにされた「知的財産」分野のニーズに基づき e-Learning 教材で取り上げるジャンルを決定した。ESP 教材開発は、英語教員にとって、素材収集から、ジャンル分析、教材作成に至るまで EGP(English for General Purposes)教材に比較して、作業量は多く負担は大きい。もし、当該分野の市販教材を見つければ、教材開発にかかる教員の負担が軽減されるが、ニーズにピンポイントで応えるものを見つけることはしばしば困難である。深山(2011)は、大学英語教科書を出版している大手出版会社 9 社の大学英語教科書から、現在流通している ESP 大学教科書を取り寄せ、それらの教材のアーカイブを作成し、ESP 教材出版状況を分析した。その結果、全アーカイブ 273 冊中に知的財産に関する教材は 1 冊もなかった。そこで、本研究で作成するジャンル分析に基づいた知的財産英語の e-Learning 教材は、この分野のプロトタイプのものとなり、今後この分野の研究を行う場合の貴重な資料を提供できるものと考えられる。

本研究では、まず研究代表者である深山が、e-Learning 教材作成の枠組みを決定した。次に研究分担者の森が、リストに挙げられた各項目の英文素材を収集した。本研究の専門分野は、「知的財産」という ESP 研究の中でもほとんど前例のない分野であったが、こうした場合、通常は英文素材の収

集から、使用許諾手続きまで、非常に困難を伴う。本研究では、共同研究者である森を知的財産分野の専門知識の提供者として迎えることができたことにより、スムーズに作業が行われた。

素材収集後は、リーディング班（深山・村尾）、リスニング班（椋平・桐村・野口）、語彙班（寺内）に分かれ、ジャンル分析から教材作成までを担当した。教材作成と同時進行で、古賀が e-Learning のシステム開発を行った。

完成した教材は、専門教員の立場から森、ESP 専門家の立場から野口が監修を行っている。e-Learning サイトの試験運用は、被験者として大阪工業大学知的財産学部 3・4 年生の協力を得た。

4. 研究成果

e-Learning サイト試験運用を行った結果、一番の問題となったのは、専門基礎科目「知的財産英語の基礎」という選択必須科目の補助教材として自主学習用にしたところ、指定した範囲をすべて修了した学生はごくわずかであった。最終テストに 2 割入れるという事を告げ再度アクセスを促してはじめて、8 割近くの学生がアクセスすることとなった。「学習に有効である」との主張だけで自主学習を促すだけでは e-Learning 教材の利用を促進することはできないであろう。紙媒体の問題とは異なり、e-Learning 教材は画面のスペースや PC 操作などの e-Learning 特有の制約上、問題のヴァリエーションが多肢選択肢、空所補充、True or False 問題等のいくつかに限られてしまうということがある。問題のパターンが限られてしまう点は、学習者を飽きさせてしまうことにもつながっている可能性がある。ただし、アンケート調査によると、アクセスして実際に修了までに至った学生の間では専門分野の英語についての認識が深まり、一般英語の知識だけでは不足しているということに自覚したものが多かったという結果が得られた。

本研究のような Can-Do リストと連動させた客観的な ESP 能力自己評価手段は現在存在しない。今後は、このサイトをプロトタイプとし、将来は各専門分野にコンテンツを広げることにも可能である。たとえば、本研究では、「知的財産英語」をターゲットとしたが、知的財産分野は、工学と法学の両方の分野にまたがった学際的分野であることから、本研究の結果は、工学、法学分野にも即利用することができるであろう。また、自己評価サイトでは、とりあげられているコミュニケーショ

ン場面をユーザーが疑似体験できることから、e-Learning 用教材としての利用も可能なので、本研究の応用範囲は広い。知的財産英語という分野だけに絞っても、先に述べたように、先行研究が存在しないことから、本研究は、今後この分野に関して行われる研究の貴重な資料となることを期待したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者および連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 深山晶子・椋平淳・寺内一・野口ジュディー・古賀友也・桐村亮・村尾純子 (2012) 『Can-Do リストと連動させたシミュレーション型 ESP 能力自己評価サイトの構築』 科研報告書 (課題番号 21520607) 査読無、(全 50)
- ② 深山晶子 (2011)、 「教科書アーカイブの作成」 『情報爆発型社会における ESP 研究プラットフォームサイトモデルの構築』 科研報告書 (研究代表者: 森口稔、 課題番号 20520541)、 査読無、 pp. 37-45.
- ③ 深山晶子、森正幸 (2009)、 「知的財産分野における英語コミュニケーション能力自己診断用 Can-Do list 作成の試み」 『知的財産分野における ESP の教授法および教材開発に関する基礎研究』 科研報告書 (研究代表者: 井村誠、 課題番号 19520528)、 査読無、 pp. 7-17.

[学会発表] (計 14 件)

- ① 深山晶子、椋平淳、村尾純子、古賀友也 「Can-do リストに基づいたシミュレーション型 ESP 教材」 JACET 関西支部 ESP 研究会 2011 年 12 月 17 日、キャンパスプラザ京都.
- ② 野口ジュディー、 「ESP 概論・ジャンル分析基礎」 『ESP による技術者の英語習得支援』 (セミナー)、2011 年 8 月 17・18 日、テクノプラザ岡谷.
- ③ 深山晶子、 「ESP 概論・ジャンル分析基礎」 『ESP による技術者の英語習得支援』 (セミナー)、2011 年 8 月 17 日、テクノプラザ岡谷.
- ④ Koga, Yuya. (2011)、 Online Self-learning System for ESP Specializing in the Field of Intellectual Property Business, 16th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, 2011 年 8 月 9 日、 Chinese University of Hong Kong, Hong Kong.
- ⑤ 深山晶子、 「自律学習のススメ」 日本時事英語学会 52 回年次大会、 2010 年 10 月 2

日、東海大学高輪キャンパス。

- ⑥ 深山晶子、「ESP 概論・ジャンル分析基礎」『ESP による技術者の英語習得支援』（セミナー）、2010年8月24日、信州大学繊維学部。
- ⑦ 野口ジュディー、「ESP 概論・ESP の枠組み・無料サイト利用応用編」『ESP による技術者の英語習得支援』（セミナー）、2010年8月23・24日、信州大学繊維学部。
- ⑧ 深山晶子、「デジタルコンテンツ活用法—CNN Student Newsを利用して」日本時事英語学会メディア英語教授法・教材研究分科会、2010年4月17日、関西外国語大学。
- ⑨ 深山晶子、「自律した学習者を育てる—時事英語教材の利用法—」日本時事英語学会メディア英語教授法・教材研究分科会、2010年3月12日、関西外国語大学。
- ⑩ 深山晶子、「ESPアプローチとは—ビジネス英語をターゲットとして」国際ビジネス英語コミュニケーション学会支部研究会、2010年2月13日、関西大学。
- ⑪ 深山晶子、野口ジュディー「ESP の理論と実践」地域企業と連携した技術資格取得支援コミュニケーション講座（セミナー）、2009年8月25・26日、長野工業高等専門学校。
- ⑫ 野口ジュディー、「ジャンル分析の応用」地域企業と連携した技術資格取得支援コミュニケーション講座（セミナー）、2009年8月25・26日、長野工業高等専門学校。
- ⑬ 深山晶子「ニーズ分析におけるコラボレーション—Can Do Listの策定事例を中心に」、大学英语教育学会（JACET）48会年次大会（シンポジウム）2009年9月4日、北海学園大学豊平キャンパス。
- ⑭ 深山晶子、「ESP 教材の作成法」、大学英语教育学会（JACET）ESP 研究会、2009年7月18日、大阪工業大学。
- [図書]（計9件）
- ① Miyama, A. (2012) *Social Trends*, Sanshusha, Tokyo. (全111頁)
- ② Yukishige, M., Miyama, A., Noguchi, J. et al., (2012), *Getting to Know Medical Genres*, Sanshusha, Tokyo. (全119頁)
- ③ Miyama, A. & Noguchi, J. et al., (2011) *Getting to Know SciTech Genres*, Sanshusha, Tokyo. (全95頁)
- ④ 深山晶子、(2010)、「教材開発」：大学英语教育学会英語教育学大系第4巻『21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践』、大修館書店、東京、pp. 45-62.
- ⑤ 新田香織、深山晶子、(2010)、「授業内活

動」：大学英语教育学会英語教育学大系第4巻『21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践』、大修館書店、東京、pp. 63-78.

- ⑥ 野口ジュディー、深山晶子、(2010)、「ジャンル分析と英語 ESP 教育への応用」：大学英语教育学会英語教育学大系第4巻『21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践』、大修館書店、東京、pp. 26-34.
- ⑦ Miyama, A. (2010) *Let's Browse Hot News*, Sanshusha, Tokyo. (全87頁).
- ⑧ 野口ジュディー・深山晶子監修・編著、(2009)『ESP にもとづく工業技術英語』、講談社、東京、(全95頁).
- ⑨ 深山晶子、(2009)、「専門教員との連携プロセスのノウハウ」福井希一、野口ジュディー、渡辺紀子編著『ESP 的バイリンガルを目指して』大阪大学出版会、大阪、pp. 60-73.

[その他]

2012年4月現在、研究分担者の古賀個人のホームページ <http://yuya-online.net/ip/> 上で e-Learning システムが稼働中であるが、微調整が終わり次第、大阪工科大学サーバーに移行する予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

深山 晶子 (MIYAMA AKIKO)
大阪工業大学・知的財産学部・教授
研究者番号：80301646

(2) 研究分担者

古賀友也 (KOGA YUYA)
夙川学院短期大学・児童教育学科・准教授
研究者番号：80321149

椋平 淳 (MUKUHIRA ATSUSHI)
大阪工業大学・知的財産学部・教授
研究者番号：00319576

森 正幸 (MORI MASAYUKI)
大阪工業大学・知的財産学研究科・教授
研究者番号：40388351

寺内 一 (TERAUCHI HAJIME)
高千穂大学・商学部・教授
研究者番号：50307146

野口ジュディー (NOGUCHI JUDY)
武庫川女子大学・薬学部・教授
研究者番号：30051787

村尾純子 (MURAO JUNKO)
大阪工業大学・知的財産学部・特任講師
研究者番号：40611314

桐村 亮 (KIRIMURA RYO)
立命館大学・経済学部・准教授
研究者番号：40584090